



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1196 2019 年 12 月 2 日

ARIB の動き

電波環境協議会 第17回技術講演会を開催

11 月 22 日（金）に、電波環境協議会 第 17 回技術講演会を当会会議室にて開催しました。
今回は、特別講演 1 件と、電波環境協議会の妨害波委員会、イミュニティ委員会の両委員会
において昨年度実施された調査研究活動の成果報告 3 件の講演を実施しました。

まず、特別講演として、「各種 LPWA 無線方式の特徴と応用例」と題し、電気通信大学特任
教授の中嶋 信生様にご講演いただきました。

次に、妨害波委員会からの調査研究報告として、「CISPR 32 1GHz 超放射エミッション代
替測定法として提案中の APD 測定許容値算出根拠データ充実のための調査研究」について、
（一社）電子情報技術産業協会 千代島 敏夫様にご講演いただきました。

さらに、同じく妨害波委員会からの調査研究報告として、「照明器具における EMC の相加
性の検討試験」について、（一社）日本照明工業会 平伴 喜光様にご講演いただきました。

最後に、イミュニティ委員会の調査研究報告として、「サージ発生器の適用規格(IEC
61000-4-5 Ed.2 と Ed.3)、及び PoE 機能付き通信ポートのサージイミュニティ試験への同発
生器の規格版数の影響に関する調査研究」について、（一社）情報通信ネットワーク産業協会
の太田 慎也様にご講演いただきました。

当日は、約 60 名の会員の皆様が参加され、熱心にご聴講いただくとともに、活発な質疑応
答が行われました。講演資料は、電波環境協議会の会員向けのホームページで公開予定です。



電気通信大学
中嶋 信生 様



電子情報技術産業協会
千代島 敏夫 様



日本照明工業会
平伴 喜光 様



情報通信ネットワーク産業協会
太田 慎也 様



会場の模様

第 280 回 技術委員会（放送分野）を開催

第 280 回技術委員会（放送分野）を開催しました。

- 1 日時： 2019 年 11 月 27 日（水） 15 時 30 分から 16 時 25 分まで
- 2 場所： 当会第 2 会議室
- 3 議題
 - (1) 第 113 回規格会議の開催について
 - (2) FoBTV 会合の結果について
 - (3) ARIB-DVB 会合報告について
 - (4) CEATEC 2019 での ARIB の出展報告について
 - (5) Inter BEE 2019 における ARIB/DiBEG ブース出展について
 - (6) 各社からのトピックス
 - (7) その他

今週の ARIB 内会合（12 月 2 日～12 月 6 日）

- 12 月 2 日（月） 高度無線通信研究委員会 第 52 回モバイルパートナーシップ部会
12 月 2 日（月） 電磁環境委員会 第 47 回広報部会
12 月 5 日（木） 第 113 回 規格会議

今週の国際会合（12 月 2 日～12 月 6 日）

参加を予定している会合はありません。

国際電気通信連合（ITU）2019 年世界無線通信会議（WRC-19）の結果

【令和元年 11 月 25 日発表】

令和元年（2019 年）10 月 28 日から 11 月 22 日までの間、エジプト（シャルム・エル・シェイク）において、国際電気通信連合（ITU）2019 年世界無線通信会議（WRC-19）が開催されましたので、主な会合結果について以下のとおり発表いたします。

1. 会合概要

- (1) 日 時： 令和元年 10 月 28 日～11 月 22 日
- (2) 場 所： エジプト（シャルム・エル・シェイク）
- (3) 目 的： 「国際的な周波数分配」について各国間での調整を目的として開催。
- (4) 参加者： 166 カ国から約 3,300 名が参加。我が国からは、総務省・民間事業者・研究機関などから約 90 名が参加。

2. 主な審議結果

(1) 国際的に調和した第 5 世代移動通信システム用周波数の拡大

第 5 世代移動通信システム（5G）等で使用することができる国際的な移動通信（IMT: International Mobile Telecommunication）用周波数の拡大に向けた検討が行われ、我が国については、新たに計 15.75GHz 幅（24.25-27.5GHz、37-43.5GHz、47.2-48.2GHz、66-71GHz）が IMT 向けの周波数として合意されました。

我が国では、この結果を踏まえ、5G 用周波数の追加割当てに向けて検討を進めていく予定です。

(2) 海上における遭難及び安全に関する世界的な制度（GMDSS: Global Maritime Distress and Safety System）の近代化など海上における新たな無線システムの導入

船舶が遭難した際に効果的な救助活動を可能とする GMDSS の近代化や、国際的に船舶用通信への活用が期待されている VHF 帯データ交換システム（VDES: VHS Data Exchange System）における衛星系システムの導入などについて検討が行われました。

この結果、イリジウム衛星システムを新たに GMDSS に活用するための周波数が合意されたほか、衛星系 VDES に使用可能な周波数が我が国提案に沿った形で合意されました。また、落水者救助等のための自律型海上無線機器（AMRD: Autonomous Maritime Radio Devices）の周波数等についても合意されました。

これらにより、海上無線通信の更なる高度化が期待されます。

(3) 極めて高い周波数であるテラヘルツ帯の一部（275-450GHz）の通信への活用

これまで受動業務（電波天文や地球観測などの受信のみを行う業務）のみに使用されていた極めて高い周波数帯である 275-450GHz が、新たに陸上移動及び固定業務に使用するための周波数帯として合意されました。我が国では、国立研究開発法人情報通信研究機構等が当該分野で世界的に先進的な取組を行っており、本議題に係る議論を主導してきました。

5G の次の世代である Beyond 5G に向けて、同周波数帯を活用した 100Gbps 級の超高速通信の実現などが期待されており、総務省としてもこの実現に向けて取り組んでいきます。

(4) 2023 年世界無線通信会議（WRC-23）の議題

我が国提案の議題を含め、以下の議題などを WRC-23 の議題とすることに合意しました。

- ・ IMT 基地局としての高高度プラットフォームの活用
- ・ IMT 用周波数の更なる拡大（7025-7125MHz 等）

(5) その他

- ・ 鉄道無線及び高度道路交通システムに使用する周波数の国際調和

各国で周波数が統一されていなかった鉄道無線や高度道路交通システム（ITS: Intelligent Transport Systems）に使用する周波数について、それぞれ国際的に調和させることが望ましい旨の決議、勧告が採択されました。

- ・ 非静止軌道衛星の本格的な利用に向けた周波数の特定や規則の導入

近年、数百から数千の非静止軌道衛星から構成される衛星システム（コンステレーションシステム）に向けた取組が急増しています。このような状況を受け、衛星軌道の利用にあたっての国際的な手続規則や周波数の利用条件などが新たに定められました。

発表については [【令和元年 11 月 25 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

無線設備規則の一部を改正する省令案等に係る意見募集
ー超高精細度テレビジョン放送のための 1.2GHz 帯及び 2.3GHz 帯を使用する
放送事業用無線局（FPU）に関する技術基準導入のための制度整備ー
【令和元年 11 月 27 日発表】

総務省は、超高精細度テレビジョン放送のための 1.2GHz 帯及び 2.3GHz 帯を使用する放送事業用無線局（FPU）に関する技術基準を定めるため、無線設備規則の一部を改正する省令案等を作成しました。同改正案について、令和元年 11 月 28 日（木）から同年 12 月 27 日（金）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和元年 11 月 27 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp